

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 27 日現在

機関番号：32617

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2014～2015

課題番号：26884049

研究課題名(和文) 中国初期王朝時代における関中平原と陝北地域の地域間交流とその変容

研究課題名(英文) Regional Exchanges between the Guanzhong Plain and the Shangbei Area: An Archaeological Study in the Early Dynastic Period of China

研究代表者

角道 亮介 (KAKUDO, Ryosuke)

駒澤大学・文学部・講師

研究者番号：00735227

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、中国新石器時代末期から西周時代にかけての初期王朝形成過程を解明するために、王朝を象徴する遺物としての玉器と青銅彝器に焦点を当て、周人の本拠地であった陝西省中央部の関中平原と陝西省北部の高原地帯にあたる陝北地域の地域間交流を検討し、王朝中心地と陝北地域との間の共通点・相違点について比較を行った。

玉器や青銅彝器の分布を検討した結果、二里頭時代における二里頭と陝北地域との交流はおそらくは山西省を経由したものであり関中平原はその枠外にあった。一方で、殷代末期から西周初頭にかけて、周人は殷王朝による北方との交流の独占に対抗するために陝北地域へ積極的に関与を深めようとしたことが明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：This study presents a comparative analysis of the Guanzhong plain, a river-valley basin in the central part of Shaanxi province, and the Shanbei area, the northern portion of the province, in ancient China. It is possible to examine the degree of regional exchange between these areas through the analysis of distribution of jade articles and bronze vessels.

The results of the study show that although there was a mutual relationship between Erlitou site and the Shanbei area, Guanzhong plain was a comparatively isolated area in Erlitou period. From late Shang to early Zhou dynasty, however, the Zhou clan increased their political influence over the Shanbei area. These changes might be countermeasures of the Zhou clan against the dominance of the Shang dynasty.

研究分野：考古学

キーワード：初期王朝 青銅器 玉璋 陝北地域 関中平原 殷周革命 袋足鬲 石ボウ遺跡

### 1. 研究開始当初の背景

古代中国において、内モンゴル自治区を中心とした北方草原地域は、東西文化の交流に重要な役割を果たしてきた。初期王朝時代には馬や青銅器などがこの道を通じて中国にもたらされたことが推定される。中原と北方とを結ぶ経路には太行山脈の東西に位置する平原・盆地帯、すなわち現在の河北省と山西省が従来注目されてきたが、陝西省北部の山地帯である陝北地域も同様に重要な経路であったことに注意する必要がある。近年発掘が進む陝西省榆林市の石峁遺跡もまさに陝北地域に位置する大遺跡であり、このような拠点で中原で初期王朝が誕生した前後に陝北に存在したことは極めて重要である。このような問題点をふまえ、初期王朝期の中原地域と陝北地域の交流の変遷を再検討する必要があると考えた。

### 2. 研究の目的

本研究は、中国の新石器時代末期から西周時代にかけての初期王朝形成過程を解明するための一環として、周人の本拠地であった陝西省中央部の関中平原と、近年強大な都市の存在が明らかになりつつある陝西省北部の高原地帯である陝北地域との地域間交流を明らかにすることを目的とした研究である。

二里頭時代から殷代末期にかけて、陝北地域は黄河流域の中原地域と北方草原地帯を結ぶ経路として重要な役割を担っていた可能性が高い。しかしながら、西周時代中期以降、陝北地域では王朝との交流が途絶える。関中平原と陝北地域における遺跡分布や土器・青銅器・玉器の出土状況を詳細に検討することで、殷末周初の変動期を経て、なぜ陝北地域は北方との中継地としての重要性を失ってしまったのかに関して考察を加えたい。中原の初期王朝に対して周辺地域がはやした役割を検討することで、古代国家の形成過程の一面を解明できると考えている。

### 3. 研究の方法

新石器時代から西周時代にかけての関中平原と陝北地域の関係を、主に玉器と青銅器の出土状況の変化から検討する。

新石器時代末期の関中平原で客省莊二期文化が先周文化へと変化を遂げる過程で、陝北地域で先に出現した石峁遺跡がどのような影響を関中に与えたのかを検討するために、現地での資料調査・遺跡踏査を通じて土器・玉器・青銅製品の年代を明らかにし、石ボウ遺跡の拠点化の時期を考察する。

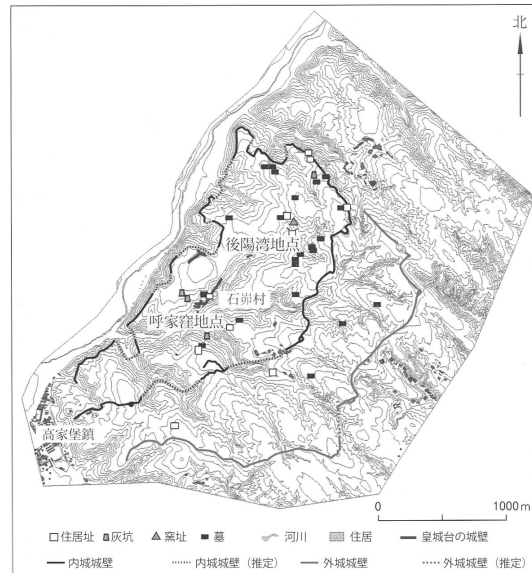
殷末周初期の殷墟期、河南省安陽市の殷墟遺跡では数多くの精緻な青銅器が製作され、陝北地域にまでもたらされた例も少なくない。一方で同時期の陝北地域からは、関中平原にあった先周文化地域において製作されたと考えられる先周式青銅器も出土する。陝北地域における殷系青銅器と周系青銅器の

分布状況層蘇の時間的な変化を検討することで、殷末周初期における陝北地域の政治的な立ち位置の変化と関中平原との間の交流の在り方を解明することが可能となる。

### 4. 研究成果

(1) 新石器時代末期から二里頭時代にかけての陝北地域と中原との交流について

2015年9月に陝西省榆林市石峁遺跡に赴き、陝西省考古研究院の孫周勇研究員・邵昌研究院の協力を得、当該遺跡での踏査と出土遺物の詳細な観察を行った。



石峁遺跡の内城と外城

石峁遺跡からは多くの土器が出土しているが、その主な器種は鬲・罍・豆・大口尊・三足瓮などである。特に鬲は袋足部に一對の長条形の鑿を付ける双鑿鬲と、単独の把手を持つ単把鬲が出土しており、三足瓮とともに、内モンゴル自治区の大口文化や朱開溝文化、山西省の陶寺文化との関連性が指摘されている。その年代はおおよそ前 2300 年頃～前 2000 年頃に相当し、山西省の陶寺文化にほぼ相当する時期と見て間違いのないようである。

一方で石峁遺跡から出土した玉器については王煒林氏らが分析を加えており、石峁遺跡石棺墓の土器の年代観から石峁遺跡出土の玉器を前後二段の時期に分け、前段を龍山文化後期併行期、後段を朱開溝文化二段併行期とみなし、玉器の全体的な年代観を客省莊二期～夏代前期の範囲内に収まるものとして考えている(王煒林・孫周勇 2011) ほぼ土器から推定される年代と同様とみなしてよいであろう。すなわち、現状では石峁遺跡の年代は新石器時代後期、陶寺遺跡とほぼ並行する時期であると考えべきであろう。依然として、二里頭遺跡とは時期的なずれがあり、併存したとは考え難い。

ここで問題となるのは玉璋の年代である。石峁遺跡からは数多くの玉璋の出土が知ら

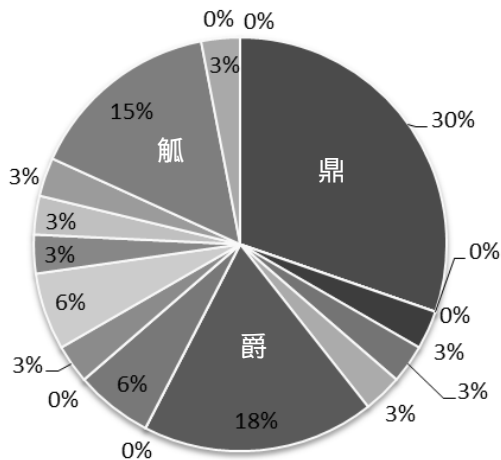
れており、これは玉柄形器の存在とともに二里頭文化との関連性を強く示唆する遺物である。しかし、これらの玉璋・玉柄形器はいずれも採集資料であり、石峁玉器後段の遺物と伴うことを示す積極的な証拠は乏しい。石峁の玉璋が二里頭よりも古いと断ずることは現状では困難である。

また、石峁遺跡の400万㎡にも及ぶ城壁の発見は、新石器時代後期の良渚遺跡や陶寺遺跡の城壁に比べより大規模であることから、陝北地域における強力な権力の存在を示す象徴として大きく扱われてきたが、その形状は良渚や陶寺の円形・方形の城壁とは大きく性格を異にしている。石峁の城壁は基本的には山地の斜面に沿って築かれており、一周して城内外を明確に区分するものではない。地形に即して集落を囲う壁の存在は新石器時代後期の岱海地域でおこった老虎山文化で知られており、土器の類似性の面からも、石峁遺跡の「城壁」は、内モンゴル地域との関連の中で説明されるべき遺構であろう。

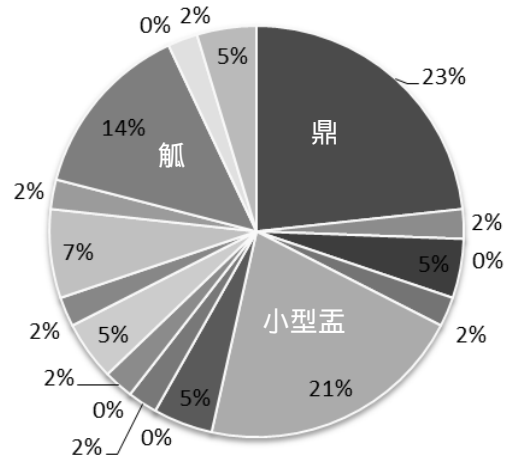
## (2) 殷末周初期における陝北地域と関中平原の交流について

2014年9月と2015年10月に、北京大学・陝西省考古研究院・国家博物館の協力を得て、陝西省関中平原内で発掘調査を行い、数多くの先周時代・西周時代の資料を詳しく観察することができた。また、あわせて陝北地域出土の同時期の青銅彝器に対する資料収集を行い、その出土状況を整理した。

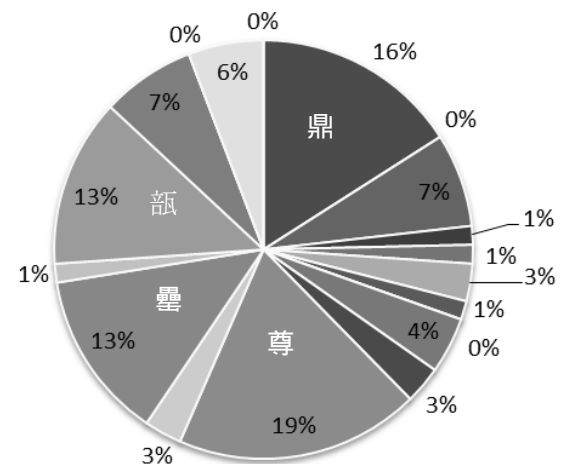
先行研究で指摘されているとおり、殷代末期に関中平原で出現する斜方格乳釘紋簋は、周人の作による先周青銅器と目されている(武者1989)。この斜方格乳釘紋簋は陝北地域でも数多く出土しており、同時に殷系の精緻な青銅彝器も出土することから、当時の陝北地域には殷と周、両者の影響が及んでいたことが理解される。ここで、殷人が爵・觚といった酒器を重視し、周人が鼎・簋といった食器を重視していたことを手掛かりとして、両者の影響力の変化を検討した。



関中地域出土の殷墟期青銅彝器の内訳



陝北地域出土の殷墟期青銅彝器



漢中地域出土の殷墟期青銅彝器

殷墟期の青銅彝器は主に三つの地域(地域)に分布するが、殷墟一期～二期の陝西省における青銅彝器は、いずれの地域でも殷系青銅彝器の組成的特徴を呈する。一方で、殷墟三期に関中で鼎・爵・觚を主とする青銅彝器組成を見せるのに対応し、陝北地域でもそれまでの酒器主体の組成から、小型盃(斜方格乳釘紋簋)中心の組成へと変化する。これは、周人が当地に強い影響を及ぼしたことの証明であろう。殷代末期の陝北地域は殷と周の影響を共に強く受けつつも、より周との関係が強まっていたことが明らかとなった。周人にとっての陝北地域は、殷末から西周初頭にかけては北方との交易を独占しようとした殷王朝への対抗上重要な地域であったことが想定される。その一方で、西周前期以降、陝北地域から出土する青銅彝器が極端に少なくなることは、王朝安定的に経営されるに従い、当地の重要性が相対的に低下したことを物語っている。

## 【参考文献】

王煒林・孫周勇 2011「石峁玉器の年代及相關問題」『考古与文物』2011年第4期

曹璋主編 2009 『陝北出土青銅器』巴蜀書社  
陝西省考古研究院・榆林市文物考古勘探工作  
隊・神木県文体局 2013 「陝西神木県石峁遺  
址」『考古』2013 年第 7 期  
陝西省考古研究院・榆林市文物考古勘探工作  
隊・神木県文体局 2015 「陝西神木県石峁遺  
址後陽湾、呼家窪地点試掘簡報」『考古』2015  
年第 5 期  
武者章 1989 「先周青銅器試探」『東洋文化研  
究所紀要』第 109 冊

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に  
は下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

角道亮介、陝西省榆林市神木県石峁遺跡の発  
見と若干の問題、駒澤大学文学部研究紀要、  
査読無、第 74 号、2016、95-102  
[http://repo.komazawa-u.ac.jp/opac/repos  
itory/all/35818/?lang=0&mode=0&opkey=R1  
46699370319837&idx=4](http://repo.komazawa-u.ac.jp/opac/repository/all/35818/?lang=0&mode=0&opkey=R146699370319837&idx=4)

〔学会発表〕(計 2 件)

角道亮介、陝北地域における殷周青銅器の  
受容と展開、日本中国考古学会 2015 年度大  
会、2015 年 12 月 19 日、成城大学(東京都世  
田谷区)

角道亮介、試論陝北地区商末周初の青銅  
器、第一屆中日考古学论坛、2015 年 3 月 28  
日、北京大学(中国・北京市)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

角道 亮介 (KAKUDO, Ryosuke)  
駒澤大学・文学部歴史学科・講師  
研究者番号：00735227

##### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

##### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：